

第3回吹田市総合計画策定委員会議事概要

- 1 日 時 平成23年12月5日（月）午後3時30分から午後5時まで
- 2 場 所 吹田市役所高層棟4階 特別会議室
- 3 出席者 別紙（出席者一覧）参照
- 4 配付資料 ・資料1 基本構想の検証について
・資料2 第3次総合計画 平成23年度作業スケジュール
- 5 参考資料 ・参考資料1 基本構想等の検証の考え方、基本構想検証のまとめ、基本構想の検証について
・参考資料2 第3次総合計画の見直しに関する将来人口の推計
・参考資料3 吹田市第3次総合計画の中間見直しに係る中学生アンケート、吹田市第3次総合計画見直し事業 高校生ワークショップ
- 6 議事内容

（1）基本構想の検証について

基本構想の検証について、「資料1 基本構想の検証について」、「参考資料1 基本構想等の検証の考え方、基本構想検証のまとめ、基本構想の検証について」を用いて、事務局から説明を行った。

【質疑応答】

質問1：地下鉄8号線の延伸（北伸）について委託事業費を費やし5年間取り組んできた。その目標として交通審議会での長期目標があるが、総合計画あるいは都市計画マスタープランの中で位置づけておく必要があると思う。新たな交通導線の確保に向けての方向性が記載されていないが、実際は動いているため基本構想を見直す必要があるのでは。

回答1：8号線の問題は、交通体系の問題であり、「地下鉄」、「阪急」、「JR」の3線の連結複合駅が想定されている。地下鉄が民営化された場合、南伸より北伸が導線としては先であると予測をしていたが、12月8日に東部拠点から吹田操車場跡地まちづくりへ転換する中で、プロジェクトとしての位置づけをすることが重要であると思う。14駅を中心とした交通体系として捉えるのか、あるいは3線連結拠点として捉えるのか等を検討する必要がある、またそれが基本構想にどのように影響するかについても検討する必要があると考える。経営戦略会議でも論点になると考えられる。

また、消防力の考え方について、危機管理能力という意味で、現在、電算システムから事業継続計画（BCP）に取り組んでいるが、単なる消防防災力ではなく、危機管理は新たな課題として捉える必要はないか。つまり、組織としての危機管理能力だけではなく、地域の防災力としての危機管理能力という視点が必要になるかもしれないため検討が必要である。

基本構想の検証は、各部総合計画検討会議に前回は依頼しているが、全体を通じた再検討を事務局から依頼する。

（2）その他報告事項について

ア 課題検討集の進捗状況について

社会経済状況の分析、基本構想の検証、基本計画の検証などの進捗状況について「資料1 基本構想の検証について」を用いて事務局から説明した。

イ 人口推計について

平成17年（2005年）及び平成22年（2010年）国勢調査結果に基づいて、コーホート変化率法、コーホート要因法、コーホート要因法（大規模開発に伴う人口加算）の方法で算出した人口推計結果について、「参考資料2 第3次総合計画の見直しに関する将来人口の推計」を用いて事務局から説明した。

【議論内容】

委員長：コーホート要因法について、人口変動要素として市外からの転入を100%としているが、吹田市では市内転居が市外転居より多いことが特徴的であるため、モデル計算することはできないか。

委員：人口については、増加している地域と減少している地域が点在しており厳しい状況である。人口の変動が明確になれば、校区割合などを検討していく必要があると思う。

委員長：人口が増加すると推計された場合、人口の増加により、消防力の整備をどのように考えるのか。また、現場到着時間をどのように捉えるか、若年人口や生産人口をどのように考えるのか。さらに、人口が1万人増加すると、ごみの発生量、コストなどがどのように変わるのかというような視点から検討してほしい。

この人口推計は人口の密度規制を考慮していないと思うが、規制が必要な地域もあると思う。過去に密度規制をしていたことがあるが、規制を外すと人口が1万5千人増加した。これは、学校の児童数にも大きく影響すると考えられる。子どもの増加要因は、密度規制と賃貸住宅寄与率であり、これが高いほど若年人口が増えると考えられる。

事務局：今回の人口推計は、通常のコホート要因法では開発要因を無視した推計となってしまうため、500戸以上の共同住宅を抽出し推計を行った。

委員長：実際は、500戸未満の共同住宅のほうが多い。500戸未満をカウントしていないことによるズレを確認してほしい。

事務局：今回は、現場を確認し建物が建っているもののみしかカウントしておらず、500戸未満は誤差の範囲としている。

委員長：どのようなまちの仕掛けがあれば、人口の流入があるかを把握する必要があると思う。今回お示しいただいた人口推計結果による影響、基本構想が現行のままでよいか各部で検討してほしい。

ウ 中学生アンケート、高校生ワークショップについて

中学生アンケート、高校生ワークショップの取組及び取りまとめについて、「参考資料3 吹田市第3次総合計画の中間見直しに係る中学生アンケート、吹田市第3次総合計画見直し事業高校生ワークショップ」を用いて事務局から説明した。

【質疑応答及び議論】

質問1：資料1で基本構想を検証した結果、基本構想自体の方向性の変更はないということ

だったが、(2) 今後の課題にあるように、そもそも基本構想から抜け落ちているものがないかを検証した結果、抜け落ちているものがあつた場合、影響度は大になると考えられるが、その場合基本構想の抜本的な見直しに関わってくるのでは。

回答1：基本構想を再検証した結果、抜け落ちているものがあつた場合、その内容が基本構想と方向性が異なるのか、あるいは基本構想を補完する程度のものであるのかなどにより、対応は異なるが、方向性と異なる場合は抜本的な見直しが必要になると考えている。

質問2：基本構想の見直しが作業スケジュールの中に含まれていないのでは。

回答2：年内中に再度各部検討会議あてに全体を見直して漏れがないかなどについて照会し、年明けに作業部会で検討していきたい。

委員長：各部がどのような動きになったかを把握するため、基本構想見直しの結果を策定委員会に報告してほしい。

委員長：都市計画マスタープランはいつ見直すのか。

委員：総合計画を踏まえて見直しをする。

委員長：総合計画と同時スタートということで時期は合ってくる。ただし、都市計画法上は市民参画が前提となっている。前回の計画策定時は非常に丁寧に市民の意見を集めたと思うが、今回の見直しはどのように取り組むのか。また検討してほしい。

委員：第5期吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画は、本年度策定のため、人口推計は住民基本台帳をもとに独自で行っている。また、第3期吹田市障がい福祉計画も第5期吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画と同時に行う。健康すいた21も、今年度中間見直しの時期である。地域福祉計画は平成23年(2011年)3月に策定したところである。地域福祉計画は、介護計画のように人口の影響はあまり受けないものである。

委員：吹田市次世代育成支援行動計画は、平成22年度(2010年度)から平成26年度(2014年度)の計画である。

副委員長：都市計画マスタープランの見直しを総合計画の見直しと同時進行で進めていく中で、どのように整合性を図っていくのか。現行の都市計画マスタープランとの確認では意味がないと思う。

事務局：人口と都市空間については、第5作業部会で検証している。また、総合計画と都市計画マスタープランとの整合を図り進めていく。

委員長：都市計画マスタープランはハード面での空間整備であり、問題は地域整備計画における社会資本としての空間整備であり、総合計画の見直しと連携しながら進めてほしい。

委員長：他に各部で持っている個別計画とスピードが合わないものはないか。

委員：教育ビジョンの計画期間が平成22年度(2010年度)から31年度(2019年度)の10年あり、平成26年度(2014年度)までに中間見直しがあるため、この内容を考えながら進めていく必要がある。

委員長：各部長レベルの目線から見ると、このような個別計画の策定及び見直しとの整合性等の問題が出てくると考えられる。作業部会では、個別計画との整合性の話は出ていないようなので、今後この点に留意してほしい。

別紙(出席者一覧)

1 構成委員

1	富田副市長(出席)
2	山中副市長(出席)
3	清多水道事業管理者(出席)
4	牲川病院事業管理者(出席)
5	田口教育長(出席)
6	太田政策企画部長(出席)
7	川下総務部長(出席)
8	平野政策推進部長(出席)
9	岡本財務部長(出席)
10	吉見自治人権部長(出席)
11	吉川市民文化部長(出席)
12	西山産業労働にぎわい部長(出席)
13	赤松児童部長(出席)
14	門脇福祉保健部長(出席)
15	羽間環境部長(出席)
16	寶田都市整備部長(出席)
17	森建設緑化部長(代理出席:石橋建設緑化部次長)
18	重井下水道部長(出席)
19	赤野危機管理監(出席)
20	坂田市民病院事務局長(出席)
21	原田会計管理者(代理出席:榭井会計室長)
22	松中消防長(出席)
23	西川学校教育部長(出席)
24	梶谷地域教育部長(出席)
25	原田体育振興部長(出席)
26	松井教育監(出席)

2 事務局(政策推進部政策推進室)

五寶政策推進部次長、木下総括参事、古川参事、十川係員、
稲見係員、黒木臨時雇用員

3 委託事業者(有限責任監査法人トーマツ)

石堂氏